

経済・金融 フラッシュ

企業物価指数 2025 年 6 月

～ガソリン補助金の影響などで、国内企業物価は前年比 3%を割り込む～

経済研究部 研究員 佐藤 雅之

TEL:03-3512-1831 E-mail: m-sato@nli-research.co.jp

1. 国内企業物価は 10 ヶ月ぶりの前年比 2%台

日本銀行が 7 月 10 日に発表した企業物価指数によると、2025 年 6 月の国内企業物価は、前年比 2.9%（5 月：同 3.3%）と、10 ヶ月ぶりに 2%台へと鈍化した。

内訳をみると 23 類別中、18 類別が上昇、1 類別が横ばい、4 類別が低下となった。ガソリンが前年比▲3.0%（5 月：同 2.5%）、軽油が同▲5.1%（5 月：同 3.8%）といずれも下落したことなどから、石油・石炭製品は前年比▲4.6%（5 月：同 0.8%）となり全体を押し下げた。ガソリンは 5/22 から補助金を 1 リットル当たり 10 円に固定する制度が導入されていたが、中東情勢の緊迫化による原油価格高騰を受けて 6/26 から 1 リットル当たり 175 円を上回る部分を全て補助する仕組みに切り替えられた。また、電力・都市ガス・水道は、原油安や円高の影響などから、前年比 3.5%（5 月：同 6.4%）と前月から伸びが鈍化した。一方、精米が前年比 76.6%（5 月：同 77.1%）、玄米が同 78.6%（5 月：同 80.0%）とコメ価格の高騰が続いていることから、農林水産物は前年比 43.9%（5 月：同 43.5%）と高い伸びが続いている。

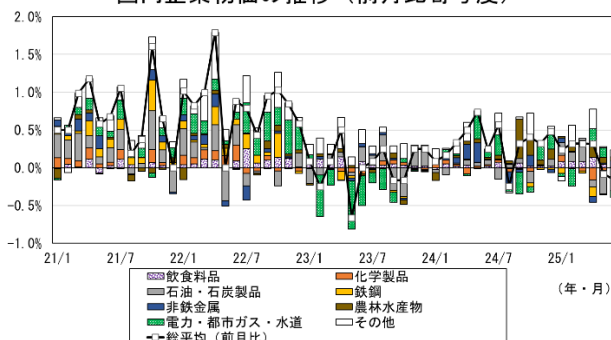
（5 月：同 3.8%）といずれも下落したことなどから、石油・石炭製品は前年比▲4.6%（5 月：同 0.8%）となり全体を押し下げた。ガソリンは 5/22 から補助金を 1 リットル当たり 10 円に固定する制度が導入されていたが、中東情勢の緊迫化による原油価格高騰を受けて 6/26 から 1 リットル当たり 175 円を上回る部分を全て補助する仕組みに切り替えられた。また、電力・都市ガス・水道は、原油安や円高の影響などから、前年比 3.5%（5 月：同 6.4%）と前月から伸びが鈍化した。一方、精米が前年比 76.6%（5 月：同 77.1%）、玄米が同 78.6%（5 月：同 80.0%）とコメ価格の高騰が続いていることから、農林水産物は前年比 43.9%（5 月：同 43.5%）と高い伸びが続いている。

企業物価指数の推移

	国内企業物価		輸出物価 (円ベース)		輸入物価 (円ベース)	
	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比
24年 5月	0.7	2.3	1.6	11.0	2.3	7.1
6月	0.2	2.6	0.8	10.5	0.6	9.6
7月	0.6	3.1	0.0	10.3	0.4	10.7
8月	-0.2	2.6	-5.2	2.5	-6.2	2.5
9月	0.3	3.1	-1.7	-1.0	-2.9	-2.6
10月	0.4	3.7	2.5	0.9	2.9	-2.3
11月	0.3	3.8	1.9	2.5	1.7	-1.2
12月	0.5	4.0	-0.7	4.5	-0.7	1.4
25年 1月	0.2	4.2	1.4	4.7	1.3	2.2
2月	0.3	4.3	-1.5	1.8	-1.9	-1.1
3月	0.3	4.3	-1.1	0.0	-1.7	-2.5
4月	0.3	4.1	-2.0	-4.2	-2.9	-7.3
5月	-0.1	3.3	-0.8	-6.4	-1.1	-10.3
6月	-0.2	2.9	0.2	-6.9	-1.7	-12.3

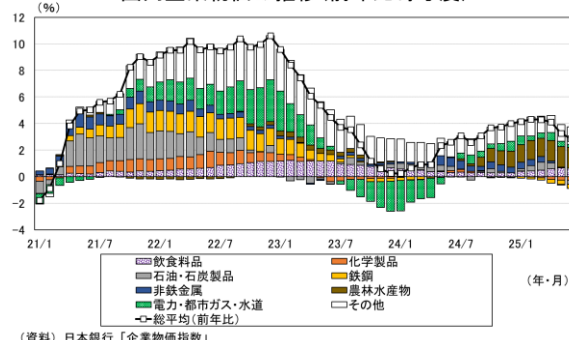
（資料）日本銀行「企業物価指数」

国内企業物価の推移（前月比寄与度）



（資料）日本銀行「企業物価指数」

国内企業物価の推移（前年比寄与度）



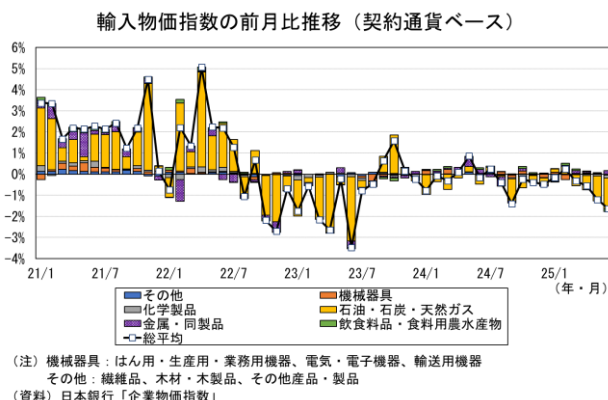
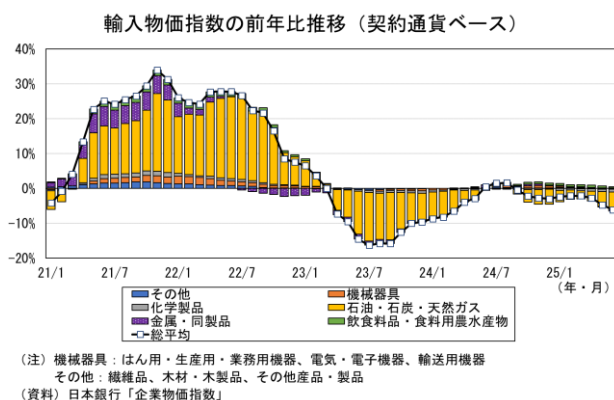
（資料）日本銀行「企業物価指数」

2. 契約通貨ベースの輸入物価は前年比▲6.1%

6月の契約通貨ベースの輸入物価は、前年比▲6.1%（5月：同▲4.7%）と10ヵ月連続のマイナスとなった。内訳をみると、ガソリンが前年比▲13.6%と11ヵ月連続のマイナス、ジェット燃料油が同▲16.9%となったことなどから、石油・石炭・天然ガスは前年比▲17.2%（5月：同▲13.8%）と10ヵ月連続のマイナスとなった。

契約通貨ベースの前月比では、▲1.6%（5月：同▲1.2%）と4ヵ月連続のマイナスとなった。内訳をみると、原油が前月比▲8.1%と4ヵ月連続のマイナス、液化天然ガスが同▲3.2%（5月：同0.5%）と下落に転じたことなどから、石油・石炭・天然ガスは前月比▲5.2%（5月：同▲4.2%）と4ヵ月連続のマイナスとなり、全体を押し下げた。

6月の為替相場は、対ドルでは144円台（前月比▲0.1%）と前月からほぼ横ばいで推移し、円ベースの輸入物価は前月比▲1.7%（5月：同▲1.1%）と前月よりマイナス幅が拡大した。



3. 先行きの国内企業物価は前年比2%台で推移すると予想

国内企業物価は前年比の伸び率が前月から鈍化し、10ヵ月ぶりに前年比2%台となった。先行きについては、飲食料品の上昇率が前年比4.5%と2023年夏頃（同8%台後半）に比べれば低水準にとどまっているものの、食料品値上げの動きはしばらく続く可能性が高い。

一方、電気・都市ガス代の支援策は2025年7～9月使用分で再開される。また、ガソリン価格は政府による「燃料油価格定額引下げ措置」によって押し下げられ、エネルギー価格の上昇率は低下することが見込まれる。さらに、農林水産省が7月7日に発表した6月23日の週のコメの平均店頭価格は3,672円/5kgと6週連続で価格が下落するなど、コメ価格は備蓄米効果による価格押し下げ圧力が生じている。今後は前年の急上昇の裏が出やすくなることが考えられ、コメ価格の前年比の伸びは次第に鈍化していくことが見込まれる。以上より、先行きの国内企業物価は2%台で推移すると予想する。